

大学フェンシング女子主将におけるリーダーシップと団体戦績に関する研究
Research about relationship between results of the team competition and leadership
through girls' university fencing

1 K08B124-1 多田 真望

指導教員 主査 太田 章 先生 副査 正木 宏明 先生

【緒言】

フェンシングの団体戦において、個々の成績が優れていても勝てず、逆に個々の戦力が低くなったにも関わらず成績が残るといった経験があった。フェンシングは団体戦でも、試合は個人戦に変わりはない。この経験から、戦績の違いは主将のリーダーシップが関係しているのではないかと考えた。5年前のフェンシングのリーダーシップに関する研究では、女子は男子と違い、個人のモラルは戦績に関係なく、リーダーシップが直接戦績に関係しているのではないかとということが示唆された。この研究の女子主将の結果を参考にし、本研究では、大学フェンシング女子主将におけるリーダーシップが団体の戦績と関係しているかを明らかにする。

【方法】

上記の目的を明らかにするために、2011 年度関東学生フェンシング 1 部リーグに所属する 6 大学の女子部員、計 57 名を対象とし、無記名自記式質問紙法による調査を実施した。1、大学別・学年別でリーダーシップ (M 機能・計画 P 機能・圧力 P 機能) に差が見られるか、また、その結果は 5 年前と環境が変わった現在と違いがあるか、2、主将のリーダーシップ (M 機能・計画 P 機能・圧力 P 機能) と団体戦績にはどのような関係性が見られるか、3、団体戦績と個人戦績にも関係性が見られるかをそれぞれ分析した。質問調査票の項目は、①属性、②主将のリーダーシップ、③自由記述。自由記述は部員の主将に対する個人的な感情や学年別の思いの違いを把握するために設けた。

【結果】

主将のリーダーシップを「人間関係構築」「技術指導」「集団管理」の 3 つの因子に分け、大学別・学年別に分析した。その結果、大学別では 6 大学とも 1 番高い因子、1 番低い因子が違い、大学によって主将のリーダーシップ・スタイルが異なっ

ていることが明らかになった。学年別では、「集団管理」に違いは見られなかったが、「人間関係構築」「技術指導」の 2 因子には違いが見られた。この点から、主将は学年によってリーダーシップを使い分けているが、部の規則や練習態度では、学年関係なく指導していることが明らかになった。5 年前との比較では、大学別ではフェンシングの認知度が上がり、環境が改善されたことにより「技術指導」に違いが見られ、学年別では上下関係の変化から上級生の間で「人間関係構築」に変化が見られた。

主将のリーダーシップと団体戦績の関係について分析した結果、6 大学中 4 大学に相関性が見られた。相関性が見られない大学の要因として、主将が試合に出場していないこと、学年が 4 年生ではなく、3 年生であることなどが挙げられた。また、リーダーシップ得点が高い大学の主将は「人間関係構築」「技術指導」の因子が高く、リーダーシップ得点の低い大学は「集団管理」の因子が高いという違いも見られた。

個人戦績と団体戦績の比較では、主将のリーダーシップと団体戦績のような相関性は見られず、個人戦績と団体戦績には全く関係性がないことが明らかになった。この結果から、個人戦績は団体戦績に直接的な関係がないことが明らかになった。

【まとめ】

本研究では、主将によってリーダーシップ・スタイルが異なること、フェンシング環境の変化によりリーダーシップも変わること、主将のリーダーシップと団体戦績には相関性があること、個人戦績と団体戦績には関係性が見られないことが明らかになった。以上の結果により、女子主将のリーダーシップが高い大学の方が、主将のリーダーシップが低い大学より団体戦において勝つ可能性が高いことが明らかになった。また、理想的なリーダーシップとして、主将は選手としても活躍する人物であり、口での指示ではなく、行動で示すリーダーシップが求められていることが明らかになった。